

東ティモール国ラクロ川及びコモロ川流域住民主導型流域管理調査

(調査期間：2007年1月～3.0ヵ月、担当業務：アグロフォレストリー2/畜産)

調査背景

東ティモール国では、1972年から1999年の27年間に、年間1.1%の割合で森林が消失し、全森林面積の24%の森林が減少した。現在同国の森林率は、国土面積の約35% (50万ha) にすぎない。本調査の対象となっているラクロ川流域は、広範囲で行われている不法伐採や薪の採集、ならびに上流部での過剰な家畜放牧が原因で植生が後退し、国内でもっとも荒廃が進んだ流域のひとつといわれている。一方で、その下流域には国内で有数のコメの産地が広がっている。そのためラクロ川流域では、上流部からの堆砂の流入の軽減と河川流量の安定化が、下流域のコメ生産を維持するための緊急課題となっている。このような状況において、東ティモール政府は2004年7月、日本政府に対して正式にラクロ・コモロ川流域の住民主導型総合流域管理に関する開発調査の実施を要請した。

調査概要

上記調査は、2006年の国内騒乱による中断をへて、流域管理、アグロフォレストリー、植林、コミュニティ森林管理、コミュニティ開発・農業開発、畜産、GIS、水保全等の専門領域において5人の専門家で構成された調査団によって実施された。調査内容は、ラクロ川とコモロ川の流域に関わる住民主導型総合流域管理計画の策定のほか農業水産省(MAF)が国内の他流域を対象に管理計画を策定・実施するだけの流域管理ガイドラインの作成、さらにOJTによるカウンターパート(MAF職員)の流域管理に関わる能力の向上を目的に業務を実施した。

担当事項

- 対象地区における畜産及びアグロフォレストリーに関する資料収集及び解析
- 畜産・アグロフォレストリーに関する開発阻害要因及び開発可能性調査
- 畜産・アグロフォレストリーに関わる開発基本計画の策定

